

## このたび 東京応化科学技術振興財団より

### 第1回科学教育の普及・啓発助成団体表彰の「優秀活動賞」を受けました

出席者：柴田憲男 宮下盛汪 密島英二 島田祥生（編集）

受賞は4団体で、  
たんけん工房の受賞理由は、以下の通りです  
「おもしろ科学体験塾の開催と推進スタッフ養成講座」  
副賞を60万円頂きました

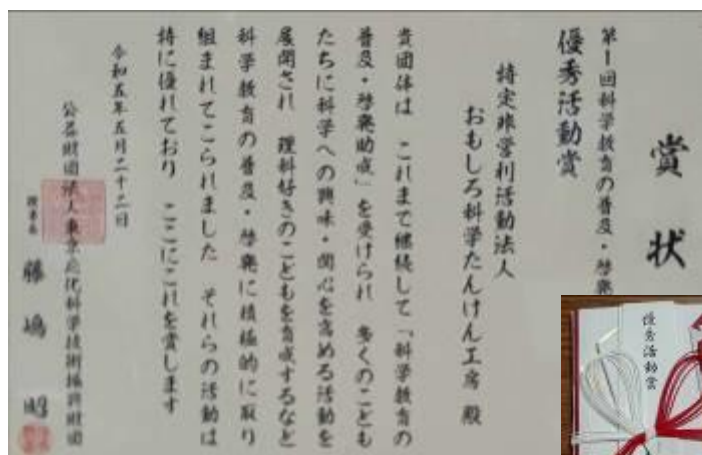
「活動奨励賞」受賞3団体：

- ・神奈川こども教室  
「たのしい子どもの科学教室」の出張教室事業
- ・ディレクトフォーカス理科実験グループ  
「出前理科実験教室」
- ・蔵前理科教室 ふしぎ不思議（くらりか）  
「寺小屋方式により理科教室の推進」

なお、第18回「科学教育の普及・啓発助成」を受けた団体は、86件で総額2,480万円。たんけん工房は45万円の助成を受けています。



藤島昭財団理事長より表彰状と副賞を受ける柴田憲男さん



5/22 東京応化の表彰式、懇親会に参加して来ました。  
規模の大きさと熱意は予想を超えるものでした。  
事務局や親睦団体とも交流して来ました。

事務局の高木さんの話では、「科学教育の普及・啓発」の重要性は東京応化内部でますます認識され、今年から「優秀活動賞」が創設され、おもしろ科学が第1回に選ばれた。

来年から「科学教育の普及・啓発」だけの交流会を作るので、お互いに交流し、相乗効果を上げてもらいたい。と言われました。

他の団体からも安田さんの実績やお世話になった話を聞きました。（宮下）



式典冒頭 藤嶋理事長挨拶の中で、今年から「科学教育の普及・啓発助成団体表彰」を行うことになったと言う話があり、次に西原選考委員長の選考経過報告で向井賞を始めとし、各種研究部門助成の選考結果報告があり、最後に今年から始まった団体表彰は「終了報告書とポスターの内容を評価した」と一言だけありました。

毎年 楨さんと安田さんが丁寧な終了報告書を書き上げて下さっているお陰です。

また、ポスターと言う言葉が出たのには驚きました。これも安田さんがポスターにもグラフを付けて下さったお陰です。

会場で、NPO法人かながわ子ども教室の佛田恵氏にお会いしました。安田さんにはいろいろと教えて戴きましたので、宜しくお伝え下さいとのことでした。（密島）

#### 授賞式後の懇親会にて

藤島理事長と歓談する

宮下さんと、財団との繋がりを作ってくれた密島さん  
藤島理事長から、

皆さん、

やりがいがあるから活動に参加するのでしょうか。

楽しくやりがいのある場づくりが大切ですよ。

とのコメントをいただきました。

藤島先生・東京応化科学技術振興財団とは  
ご縁が続いています

これも皆さんの、日ごろの前向きな活動の賜物です

東京応化科学振興財団から助成を受け始めて数年経ちます。  
回を重ねるごとに、ますます評価が高まっている感触です。

理事長の藤島先生には、ことのほか我々の活動を評価していただき  
ており、20周年記念「感謝の集い」にお願いした特別講演  
「科学を楽しく一身の周りの不思議と素晴らしい先人科学者達、  
そして光触媒の面白さ」は、記憶に新しいところです。

また、そのご縁で、開け！科学の扉シリーズの第6巻「地域が育  
てる科学の芽」で、おもしろ科学たんけん工房は相当数のページ  
を活動紹介に使わせてもらうことができました。

授賞式に参列して、東京応化科学技術振興財団の活動の広さ・深  
さを、改めて知ることとなりました。

藤島先生と振興財団から、特におもしろ科学体験塾の事業につい  
て、我々の想像をはるかに超えた高い評価を受けていることに、身  
の引き締まる思いがしました。

ともすれば、現状に流れがちな中、外からこれだけの評価をいた  
だいていることで、我々は、体験塾を宝石の原石として、ますます  
磨きをかける責務を負っているのだと認識せざるを得ません。

藤島先生の「やりがいがあるから活動するんでしょう」を工房の  
大切な文化として、さらに育てていきたいものです。(島田)



書籍発刊費支援

- ・ヤングサイエンス選書 (①～⑧)
- ・開け！科学の扉 (①～⑧)
- ・新しい科学の世界へ (①～⑤)

この度の受賞を記念して、川崎市民  
アカデミーより④⑤各150冊の  
寄贈を受けました。

## 理事長よりごあいさつ

公益財団法人東京応化科学技術振興財団は1987年、初  
代理事長の故向井繁正氏(東京応化工業株式会社の創始者)  
が米寿を迎えた際に、当時東京応化工業株式会社社長の故  
伊藤毅雄氏賛同の下、科学技術の研究開発や研究交流に対  
して助成を行うことを目的に設立されました。

現在当財団では、研究費の助成、国際交流助成、研究交  
流促進助成、科学教育の普及・啓発助成の四つの事業並び  
に科学技術の振興に特に優れた功績をあげられた方へ「向  
井賞」の表彰事業を行っています。

助成事業のなかでも科学教育の普及・啓発助成は、当財  
団が特に重点課題として取り組んでいるものです。青少年  
の理科離れを防ぎ、理科好きな子どもたちの育成に貢献す  
るため、ボランティア等で子どもたちへ科学教育の普及・  
啓発活動をされている方々へ活動費の支援を行っています。  
そして、その成果をまとめた書籍の発刊支援を試み、  
書籍を広く配布することでより多くの理科教育に携わる

方々への情報発信を行っています。また、子どもたちが良  
い本との出会いの機会に恵まれ、少しでも多くの日本の将  
来を担う理科好きな子どもたちが育つことを願って、公的  
施設への推薦図書セット寄贈を行っています。

設立からこれまでに1,442件(総額8億円)の助成事  
業を行っており、今後も財団の事業発展に貢献できるよう  
邁進して参る所存ですので、引き続きご支援ご協力をよろ  
しくお願い申し上げます。



理事長 藤嶋 昭  
Akira Fujishima

東京大学特別栄誉教授、東京理科大学栄誉教授。主  
な研究分野は光触媒、光機能材料。朝日賞(1983年)、  
紫綬褒章(2003年)、文化功労者(2010年)、トムソン・  
ロイター引用栄誉賞(2012年)、文化勲章(2017年)、  
川崎市名誉市民(2019年)、中華人民共和國友誼賞  
(2019年)など受賞歴多数